

鹿嶋・清真学園中

# 税の仕組み理解深める

## 卒業生税理士が講演

社会科公民的分野の一環として「租税教室」が6日、清真学園中（鹿嶋市宮中、飯山克則校長）で開かれた。3年生の140人が参加し、税金や財政の仕組みについて理解を深めた。



税について説明する出口正人さん（右端）＝鹿嶋市宮中

社会を支える一員としての自覚を育む目的で、租税教室は毎年1回開かれている。今回は25期卒業生で出口会計事務所所属の出口正人税理士が講師を務めた。3年生は夏休みの課題として税に関する作文を書く予定。

講義では、税金の必要性や財政の課題などを説明。税理士の仕事内容に触れた後、税金がなくなった世界をアニメで描くDVDを視聴した。学費が払えないため義務教育を受けられない子どもたちや、年金制度がないために職探しを続ける高齢男性など、書らして困る人が登場。出口さんは、国や地方公共団体が提供するサービスは、国民の税金で賄つことを伝え「皆の幸せのために税金は存在している」と強調した。日本の財政状況としては、国の借金を将来の世代に先送りしている現状を

伝えた。その原因に少子高齢化による働き手の減少があると訴えた。また、国民一人一人が税の使われ方に関心を持ち、選挙に参加することが大切と呼びかけた。

参加した保立恭さん(14)は「税金がある世界で生きていてよかった。税のことを身近に感じられた」と語り、額賀啓丞さん(15)は「選挙を通して、自分たちで税金の使い道を決められるのはすごい制度」と話した。

(三上山明里)

出所：2024年7月11日（木）

茨城新聞 地域いばらきワイド